

「基準値」で思考停止は、危ない!!

一地球市民の書棚から②9

地球市民 大村 昌宏



耳を疑いたくなる事態が進行している。環境省が「除染」（福島第一原発事故）で集めた「放射能汚染土」を公共事業で全国にバラ撒こうとしているのだ。根拠は、放射線の値が「基準値」以下になったから安全に問題ないと。

原発についても危惧される事態が進行している。原子力規制委員会は、基準値に適合していると次々に原発の再稼働を認めている。島崎邦彦さん（前委員長代理）が地震動の計算式に問題がある、基準値をもっと厳しくすべきだ指摘しているにもかかわらずだ。

はては、東京都の豊洲新市場で。相次ぎ毒性物質が検出されているにもかかわらず「基準値」からいって問題ないと移転が強行されようとしている。豊洲への移転にあたっては、東京ガス工場由来の「毒性の強い汚染土」の撤去と盛り土による「無害化」が大前提だった。この間明らかになったことは「無害化」にはほど遠い豊洲の汚染の深刻な現状だ。

「基準値」は安全を確保する上で、重要な役割をはたす。しかしその設定理由をきちっと押さえておかないと、「基準値」そのものが絶対化され「利害関係者」によって悪用される。

「基準値」では専門用語や数値が出てくる。チンプンカンプン、ここで思考停止してしまう。しかしこれが原因で「生命及び財産」を奪われてからでは遅いのだ。

今回は、この「安全」と「基準値」の関係について考えた。

「安全」「基準値」とは・・・

「安全」と「基準値」を考える上で面白い本がある。
「基準値のからくり 安全はこうして数字になった」
(2014年 講談社)。4人の研究者によるものだ。

本書では、20才がなぜ成人年齢の「基準値」となったのか、から始まり「飲食物に関する基準値」「環境にまつわる基準値」「事故にまつわる基準値」について解説している。

「安全」と「リスク」について

ここでいう「安全」とは、絶対安全、リスクゼロを意味しない。安全を次のように定義する。安全とは「受入れられないリスクのないこと」。リスクとは「好ましくないことが起こる可能性や確率」のことをいう。

社会的に「受入れられるリスク」を具体的に定量化したものが「基準値」だ。これが守られることで社会は

安全を確保している。

「基準値」について

さまざまな分野の「基準値」は「セーフティーネット」として私たちの日々の暮らしを守っている。これらの基準値は、科学的知見にもとづく様々な「仮説」や「前提」で設定されている。

世の中は常に変化している。「仮説」や「前提」はあわないものになっていく。私たちがこれに気づくのは残念ながら「事故」や「事件」が起きてからだ。

「基準値をどのように設定すべきか」についての科学は確立しているとはいいがたい。このプロセスでは、「裁量の予知」が大きく、「従来型の科学」は通用しない。「答えは一つ」ではないからだ。

最後には、どのレベルを「受け入れるリスク」と判断するかという社会的合意も必要となる。今日本において欠けているのは「レギュラトリーサイエンス」だ。